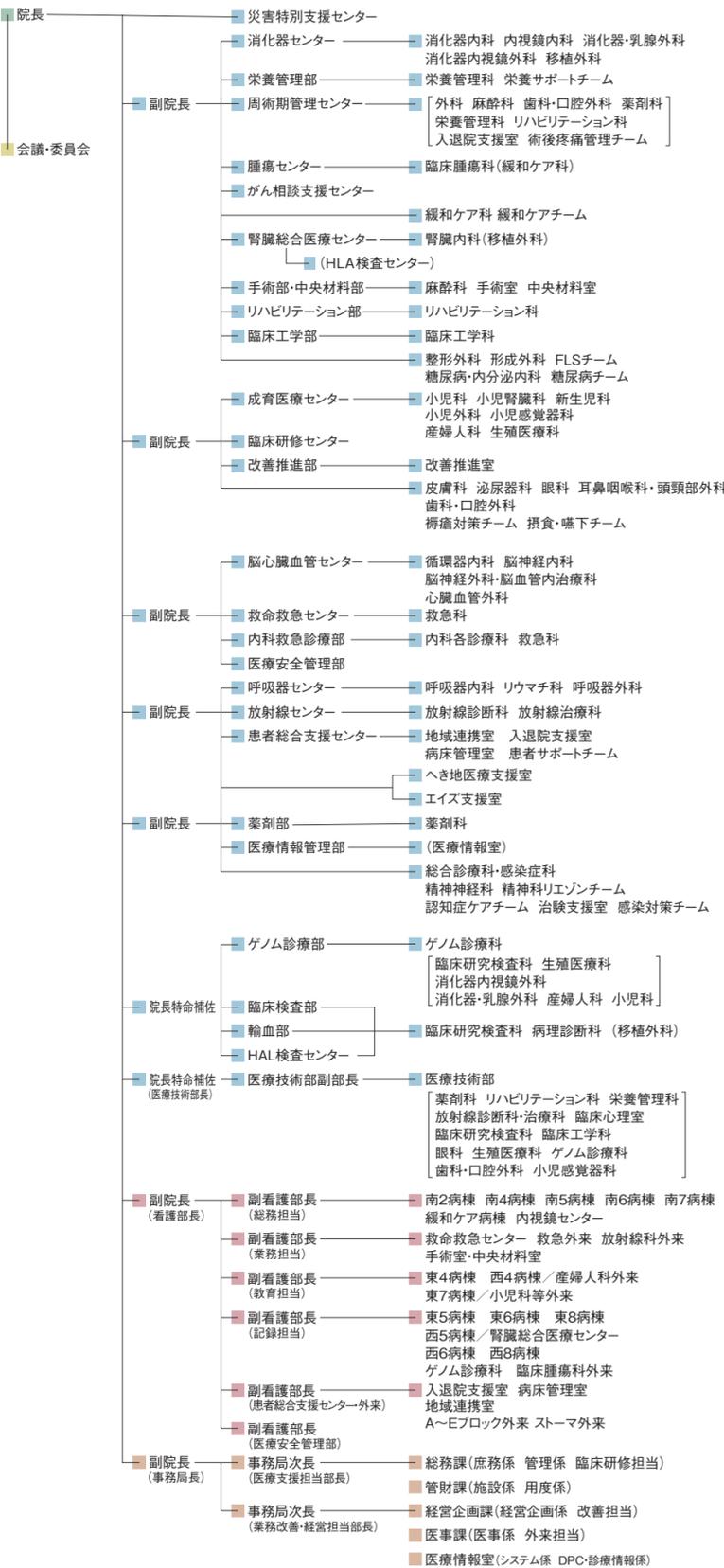
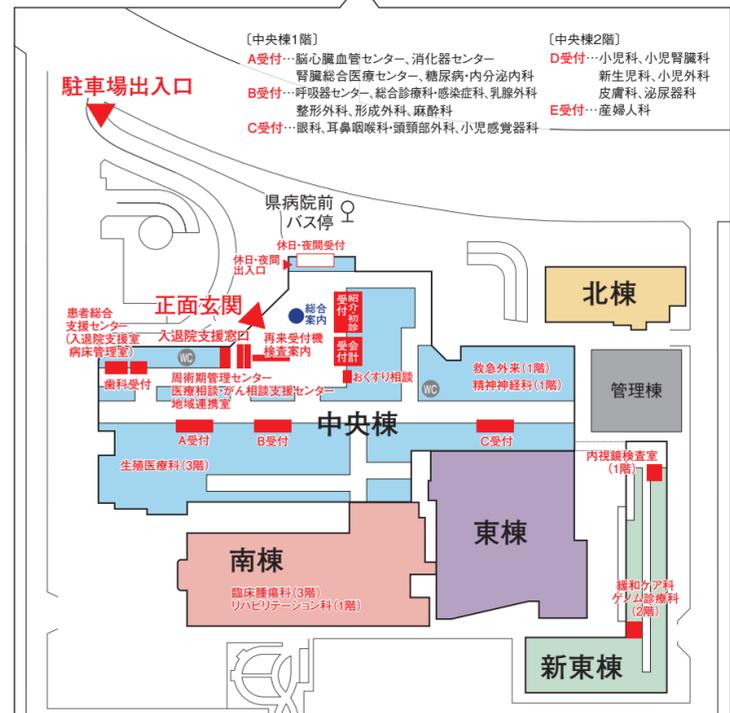


院内組織機能図



当病院への交通

- 市内電車: 広島駅6番1番(紙屋町経由)→広島港(宇品)行き→「県病院前」下車徒歩3分
バス: 【広電バス】八丁堀→仁保戸坂線(12)仁保沖町行き→「県病院前」下車徒歩1分
タクシー等車: 広島駅から約20分、広島バスセンターから約20分



県立広島病院
〒734-8530 広島市南区宇品神田一丁目5番54号 TEL(082)254-1818
ホームページアドレス http://www.hph.pref.hiroshima.jp/

HIROSHIMA PREFECTURAL HOSPITAL

県立広島病院



県民の命を守ります。

当院は「患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院を目指すこと」を理念に掲げ、広島県全域を視野に入れ、救急医療、脳心臓血管医療、成育医療、がん医療などの領域を中心に、高度急性期機能の維持・強化を図るとともに、災害時における医療体制を整備することで基幹病院としての役割を果たしています。

医療機能の強化に向けては、人材の確保や高度先進機器の整備のみならず、患者さんが抱える課題に対し、多職種からなるチームを編成し、それぞれの専門知識を活用したチーム医療を実践し、医療安全と医療の質の向上を図ります。また、今後起こりうる大規模災害や新興感染症に対して、迅速かつ適切に対応できるように体制を整備・強化しています。

人材育成機能の維持・充実に向けには、医師だけでなく全職員の働き方にも配慮しながら、医療者の確保・育成も含めて、県内の医療水準向上への貢献を目指しています。一方で、医師を含めた医療従事者の業務負担の軽減を図るために、引き続き業務改善を進めてまいります。

最後に、これからも県民の皆さんに信頼していただける医療の提供に心がけ、地域連携のさらなる強化にも努め、「県民の命を守る」ために鋭意努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。



院長 板本 敏行

患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院をめざします。

- 1. 医療事故ゼロを目標として、患者さんの安全対策向上に努めます。
2. 県の基幹病院として、高度・先進医療を推進します。
3. 各医療機関と連携を強め、地域医療の充実に貢献します。
4. 地域医療に貢献する医療人材の育成に努めます。
5. 健全な病院経営に努め、良質な医療サービスを提供します。
6. チーム医療の強化に努めます。
7. 職員が働きやすい環境を作ります。

- 1. 人間としての人格・価値観などが尊重される権利
2. 適切な医療を平等に受ける権利
3. 病状や治療についてわかりやすく十分な説明を受ける権利
4. 治療等の選択について自らが決定する権利
5. 個人情報の保護を受ける権利

概要 (令和6(2024)年4月1日現在)

Table with hospital statistics: 許可病床数 / 712床 (一般病床 662床, 精神病床 50床), 職員 / 1,526人, 敷地面積 / 25,325.30m², etc.

主要機器・システム

- 超音波血管内イメージングシステム, FPDシステム・CRシステム, 前立腺がん密封小線源装置, etc.

院内サービス施設

- 美容室(南棟上階), 銀行ATM(中央棟1階), コンビニエンスストア

厚生労働省認定施設等状況

- 臨床研修指定病院 (S46.3.31認定), 総合周産期母子医療センター (H11.3.30認定), 救急救急センター (H8.11.1認定), etc.

救急医療

〈救命救急センター〉

救急隊ホットラインを設置し、救急医が常時オンライン交信できる体制により、あらゆる最重症の急患を24時間体制で的確に対応します。

救命救急センターは救急隊員または他の医療機関において「生命の危機の可能性がある」と判断されたあらゆる重症の患者さんを、24時間365日対応で受け入れるために、救急科の救急専従医と専従看護スタッフが常駐し、重症救急患者の受け入れと診療にあたっています。最重症の患者さんの受け入れを円滑に行うため、消防局、救急車との間にホットラインを設置し、救急隊員や119番指令室、およびドクターヘリスタッフと救急医が常時オンライン交信できる体制になっています。そして院内での急変時においては院内救急コール体制を整え対応しています。また平成30年7月から、消防局からの要請に応じて救急医師・看護師らが直接現場に向かい早期に救急処置を開始する「ドクターカー事業」を導入し患者さんの受け入れをより迅速かつ円滑に実施できるよう体制を整えています。さらに、脳卒中や心筋梗塞などの疾患は、短時間での専門治療や救急処置が患者の転帰を左右します。当院では、当直体制に脳神経部門及び心臓血管部門の専門医師を配置するなど、脳心臓救急にも力を入れ、専門的かつ高度な、安定した救急医療の提供に取り組んでいます。



成育医療

〈成育医療センター〉

生殖医療科、産婦人科、新生児科、小児科、小児外科、小児腎臓科、小児感覚器科、歯科・口腔外科等の機能が連携し、継続したチーム医療を行っています。

当院は平成7年に母子総合医療センターを開設し、平成11年には総合周産期母子医療センターの指定を中国四国地方で初めて受け、県内の周産期医療の充実強化に努めてきました。そして、広島県はお母さん、赤ちゃんにとって全国でトップクラスの安心・安全な県として高く評価されています。



総合周産期母子医療センターに加え、小児感覚器科(視覚・聴覚・ことばの医療)、小児腎臓科、生殖医療科(不妊治療)を新設し、産科と新生児科の周産期部門を拡充・増床して機能を一段と強化し、小児科・小児外科と婦人科病棟を改築・整備して、平成21年3月に成育医療センターとして、発展・改組しました。成育医療センターでは、これら診療科の機能を総合的に連携させ、妊娠、出産、新生児、小児、思春期、成人に至るライフステージで生じる疾患に対して継続したチーム医療を行っています。



がん医療

がんの診断、治療、在宅ケア、緩和ケアまで一貫した、高度ながん治療をチームで提供します。

がんの治療の3大柱は、手術、化学(免疫)療法、放射線治療ですが、それぞれ長所短所があります。患者さんの状態、がんの進行度とそれぞれの治療の特性を考慮し、患者さんの希望も取り入れながら、治療法を選択していきます。さらに、がんと診断された場合、手術や抗がん剤・放射線治療をできるだけ早く実施できる体制をとっています。当院は地域がん診療連携拠点病院に指定されており、専門的かつ高度ながん医療を提供するため、平成18年には化学療法を専門とする臨床腫瘍科を開設しました。また、がんに対する手術、化学療法、放射線治療を行うとともに、平成27年になん治療を行う専用病棟の「腫瘍センター」を設置し、多職種(医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、作業療法士、心理療法士など)によるチーム医療を積極的に行い、がん患者さんの生活の質の向上を図っています。加えて、早い段階での緩和ケアの提供も行っています。そして、放射線治療や腹腔鏡手術などの低侵襲手術、早期の胃がん等に対する内視鏡治療に力を入れるなど、「患者さんにやさしいがん医療」を推進しています。また令和3年9月には手術支援ロボットを導入し、より患者さんの身体に負担が少ない手術が提供できるようになりました。令和元年6月からは、当院でがん遺伝子パネル検査を保険診療で行っています。令和4年にはゲノム診療科を設置し、がんゲノム医療体制を強化しました。また、遺伝性腫瘍に対するサーベイランスも行っています。令和5年3月にはがんゲノム医療拠点病院に指定され、がんゲノム医療にいっそう力を入れています。



地域完結型医療

〈患者総合支援センター〉

地域の医療機関の先生方及び医療従事者の方々との連携を推進し、患者さんの状況に応じた、最適なより良い医療を提供します。

当院は地域医療支援病院として地域で医療を完結させることを目標に、地域の医療機関との診療ネットワークづくりを積極的に行っています。当センターは、地域の医療機関との橋渡しの役割を担っており、看護師、医療ソーシャルワーカーなどのスタッフが紹介患者さんの受診予約、がんをはじめ、医療に関する相談や、入退院支援、在宅支援、転院調整などを行っています。また、地域医療の向上を図るため、医療スタッフや福祉関係者、地域住民の方への研修会なども開催しております。今後も県民の皆様が、安心して医療を受けられるように医療提供体制の強化に取り組んでいます。



チーム医療

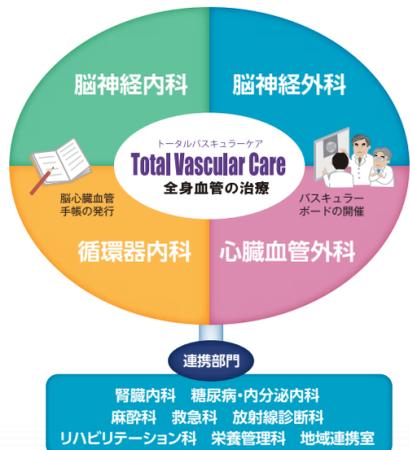
〈周術期管理センター〉

患者さんが当院を受診して、手術の準備を行い、手術を受けて、元気に退院するまでの入院生活を多職種でサポートするチーム医療が「周術期管理センター」です。

当院は外科系診療科、麻酔科、外来・手術部・病棟看護部、歯科、栄養管理科、薬剤科、リハビリテーション科、栄養サポートチームで構成する「周術期管理センター」スタッフが患者さんと一緒に外科治療に取り組み、患者さんの手術リスクを減少させ、満足度を上げて、早く元気に社会復帰できるように全力でサポートします。



HIROSHIMA PREFECTURAL HOSPITAL

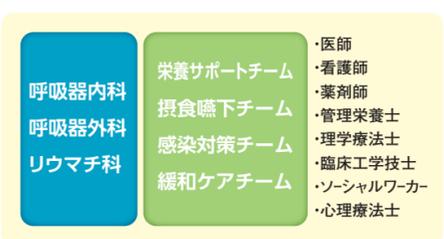


〈脳心臓血管センター〉

脳心臓血管疾患とは動脈硬化を直接の原因とし、高血圧や脂質異常症、糖尿病などの危険因子が重なり合って引き起こされる心筋梗塞、脳卒中や下肢閉塞性動脈硬化症等の血管病のことです。これらの重大な疾病を防止するためには、このような危険因子をしっかりと管理することが重要です。脳心臓血管センターは、動脈硬化を有するハイリスクな患者さんの危険因子の管理や全身の血管を精査・治療する「トータルバスキュラー・ケア」を目的としています。構成する診療科(循環器内科、脳神経内科、心臓血管外科、脳神経外科)が連携して血管病変の予防・治療・再発防止に向けて最適な医療を提供します。

〈腎臓総合医療センター〉

透析室では、透析を必要とする方がいつでも安心して治療を受けて頂けるように心がけています。



〈呼吸器センター〉

肺がんをはじめとする難治性疾患の症例数は急速に増加しておりますが、近年では画像診断・がんゲノム検査・抗がん剤治療・放射線治療・手術治療などの高度な医療の進歩によって治療成績が大きく向上してきました。当院の「呼吸器センター」では、高度な医療を提供する体制を整え、診断や治療に取り組んでいます。

〈消化器センター〉

「消化器センターの理念」
・患者さん中心の専門性の高い医療を提供します。
・絶えず医療の質の向上を追求します。
・より早く、より正確で、より安全な医療を提供します。

院内配置図 病棟は主な診療科を示しています。(令和6(2024)年4月1日現在)		南棟	
講堂	副院長室 主任部長室	美容室	
控室	副院長室 主任部長室	南7病棟 精神神経科	
控室	医局	南6病棟 整形外科 形成外科 消化器内科 内視鏡内科 移植外科	
図書室	看護部長室 看護部 医療安全管理部 医局	南5病棟【消化器センター】 消化器・乳腺外科 消化器内科 内視鏡内科	
管財課 医療情報室 臨床心理室	院長室 事務局長室 総務課 経営企画課	南4病棟【消化器センター】 消化器・乳腺外科 消化器内科 内視鏡内科	
		外来診療科 (緩和ケア科)(ゲノム診療科) へき地医療支援室 治験支援室	外来診療科 (臨床腫瘍科) 化学療法室 言語聴覚療法室
		手術室 結石破砕室 ME機器室	手術室 家族待合室
		外来診療科 (緩和ケア科) 泌尿器科 内視鏡検査室 内視鏡内科	外来診療科 麻酔科(ペインクリニック) リハビリテーション科 運動療法室 高気圧酸素治療室
		放射線診断科 放射線治療科	放射線診断科 雲安室 解剖室 標本室

(東)		中央棟		(西)	
8F	東8病棟 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 眼科 総合診療科 脳神経内科			西8病棟【腫瘍センター】 臨床腫瘍科 放射線治療科 皮膚科	
7F	東7病棟【成育医療センター】 小児科 小児外科 新生児科 小児腎臓科			西6病棟 呼吸器内科 呼吸器外科 リウマチ科 泌尿器科 総合診療科 皮膚科 産婦人科	
6F	東6病棟【呼吸器センター】 呼吸器内科 呼吸器外科 リウマチ科			西5病棟 循環器内科 泌尿器科 腎臓内科 移植外科 糖尿病・内分泌内科	
5F	東5病棟【脳心臓血管センター】(心臓血管部門) 循環器内科 心臓血管外科			西4病棟【成育医療センター】(総合周産期母子医療センター) 産婦人科 生殖医療科	
4F	東4病棟【成育医療センター】(総合周産期母子医療センター) 新生児科(NICU)			外来診療科 (生殖医療科) 【腎臓総合医療センター】 腎臓内科 移植外科	臨床研究検査科 病理診断科
3F	外来診療科 (生殖医療科) 【腎臓総合医療センター】 腎臓内科 移植外科				
2F	【救命救急センター】(ICU-HCU) 救急科			外来診療科 (産婦人科 新生児科 小児科 小児外科 小児腎臓科 泌尿器科 皮膚科) 生理検査室 授乳室	講堂
1F	外来診療科 (総合診療科・感染症科 循環器内科 消化器内科 内視鏡内科 呼吸器内科 リウマチ科 糖尿病・内分泌内科 腎臓内科 脳神経内科 歯科・口腔外科 消化器・乳腺・移植外科 心臓血管外科 呼吸器外科 整形外科 形成外科 脳神経外科・脳血管内治療科 眼科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 小児感覚器科 精神神経科) 中央採血室 中央処置室 ストームケア・多目的ケア室 救急外来 CT 総合案内 薬剤科 医事課 夜間休日受付 【患者総合支援センター】地域連携室 入退院支援室 病棟管理室 患者サポートチーム 【がん相談支援センター】【周術期管理センター】				
B1F	外来診療科 (放射線診断科 放射線治療科) X線 骨密度 CT 血管造影 中央監視室				駐車場
					B2F 駐車場